

学術講演会

(令和元度)

日時	場所	講師	演題
令和元年 7月26日(金) 17時30分～	センター2階 多目的ホール	千葉大学大学院医学研究院 口腔科学講座 教授 丹沢 秀樹 先生	医科歯科連携:「果たすべき役割と今後の展開」
令和元年 11月28日(木) 17時30分～	センター2階 多目的ホール	聖マリアンナ医科大学 心臓血管外科副部長 西巻 博 先生	大動脈疾患におけるステント グラフト内挿術 -最近の話題を中心に-

市民公開講座

(令和元年度)

日時	場所	講師	演題
令和元年 7月13日(土) 10時00分～	センター2階 多目的ホール	内科 平井 愛山 先生	「糖尿病について この病気の本当の怖さ…」
令和2年 9月28日(土) 9時30分～	東部台文化会館 音楽ホール	脳神経外科 永野 修 先生 心臓血管外科 梶沢 政司 先生	「ガンマナイフってどんなナイフ? 切らずに治すガンマナイフ治療」 「体にやさしい心臓手術のほなし」

第20回千葉県循環器病センター研究発表会

令和元年12月13日（金）千葉県循環器病センター 多目的ホール

司会進行 山老 繁樹

第1部 座長（前半） 検査科部長 江澤 かおり
4B師長 進藤 久江

座長（後半） 外科部長 林 永規
栄養科部長 石橋 裕子

演題－1 退院調整看護師の取り組み～自宅退院支援事例を通して～
地域医療連携室 磯野 美和子

演題－2 緊急時の輸血について
検査科 石坂 優真

演題－3 外来自己注射への関わり
薬剤部 野溝 聡

演題－4 高齢心不全患者の食事摂取状況及び栄養評価について
栄養科 荒井 文乃

演題－5 カニューレ挿入患者への摂食嚥下訓練の介入ポイント
リハビリテーション科 鶴澤 光宏

演題－6 4D flow MRIによる血流の可視化と定量化
放射線科 長渡 努

演題－7 千葉リハビリテーションセンターで行われる
運転評価について
リハビリテーション科 鈴木 太土

第2部パネルディスカッション 座長 峯副病院長

「チーム医療の現状と展望」

演題1 成人先天性心疾患治療部の現状と展望

心臓血管外科 椋沢 政司

演題2 ガンマナイフ診療部の現状と展望

脳神経外科 永野 修

演題3 低侵襲血管内治療部の現状

心臓血管外科 浅野 宗一

演題4 心臓カテーテル治療部の現状と展望

循環器科 田永 幸正

演題5 てんかん診療部の活動

副看護局長 清水 千春

施設の状況



土地・建物一覧

(単位：平方メートル)

区分	名称	構造	面積	取得年月日	備考
土地	宅地		61,841.69		
建物	千葉県循環器病センター	鉄骨鉄筋コンクリート 地下1階・地上6階建	建 4,637.54 延 21,117.74	平成 10.2.1	
〃	ガンマイフ・リハビリテーション棟	鉄骨造り平屋建	807.13	平成 18.2.28	
〃	第六病棟	鉄筋コンクリート平屋建	793.44	昭和 50.6.30	
〃	さくらハイツ (看護師宿舎)	鉄筋コンクリート5階建	建 436.63 延 1,668.48	平成 9.4.1	50室
〃	かすみハイツ (看護師宿舎)	鉄筋コンクリート5階建	建 439.66 延 1,638.82	平成 10.3.31	50室
〃	グリーンハイツ (医師住宅)	鉄筋コンクリート5階建	建 290.24 延 1,167.18	平成 9.9.12	世帯用 10室 単身者用 10室
〃	職場保育所 (たけの子保育所)	鉄骨造り平屋建	建 256.00 延 199.98	平成 10.2.1	

令和元年度医療機器

資産名称	納入業者	構造規格
コバルト60レクセルガンマナイフユニット線源	(社)日本アイソトープ協会	コバルト60レクセルガンマナイフユニット線源 Co-60 213.12TBq
1. 5テスラMRI	株フィリップス・ジャパン	Ingenia1.5T 超電導磁気共鳴画像診断装置

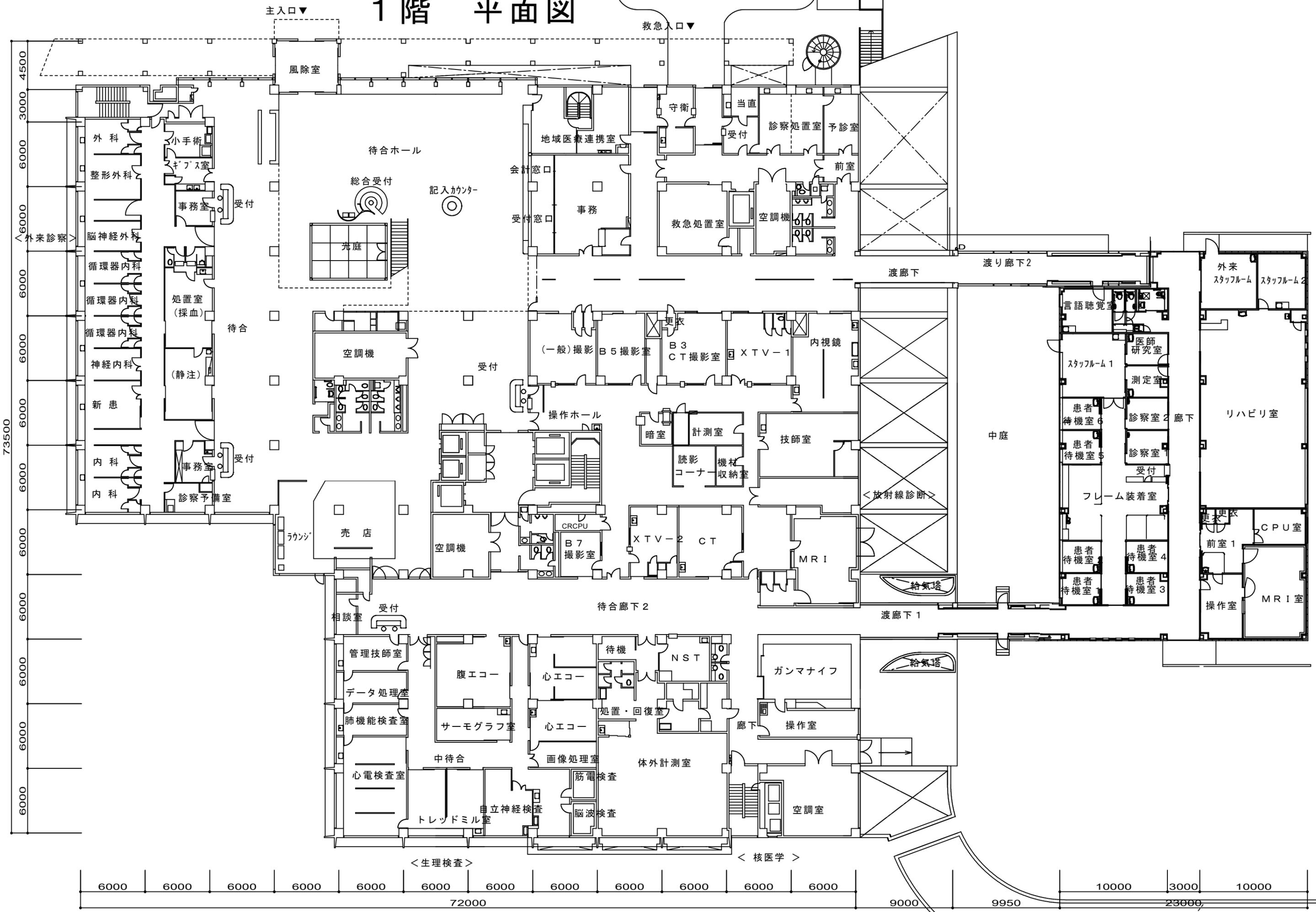
その他



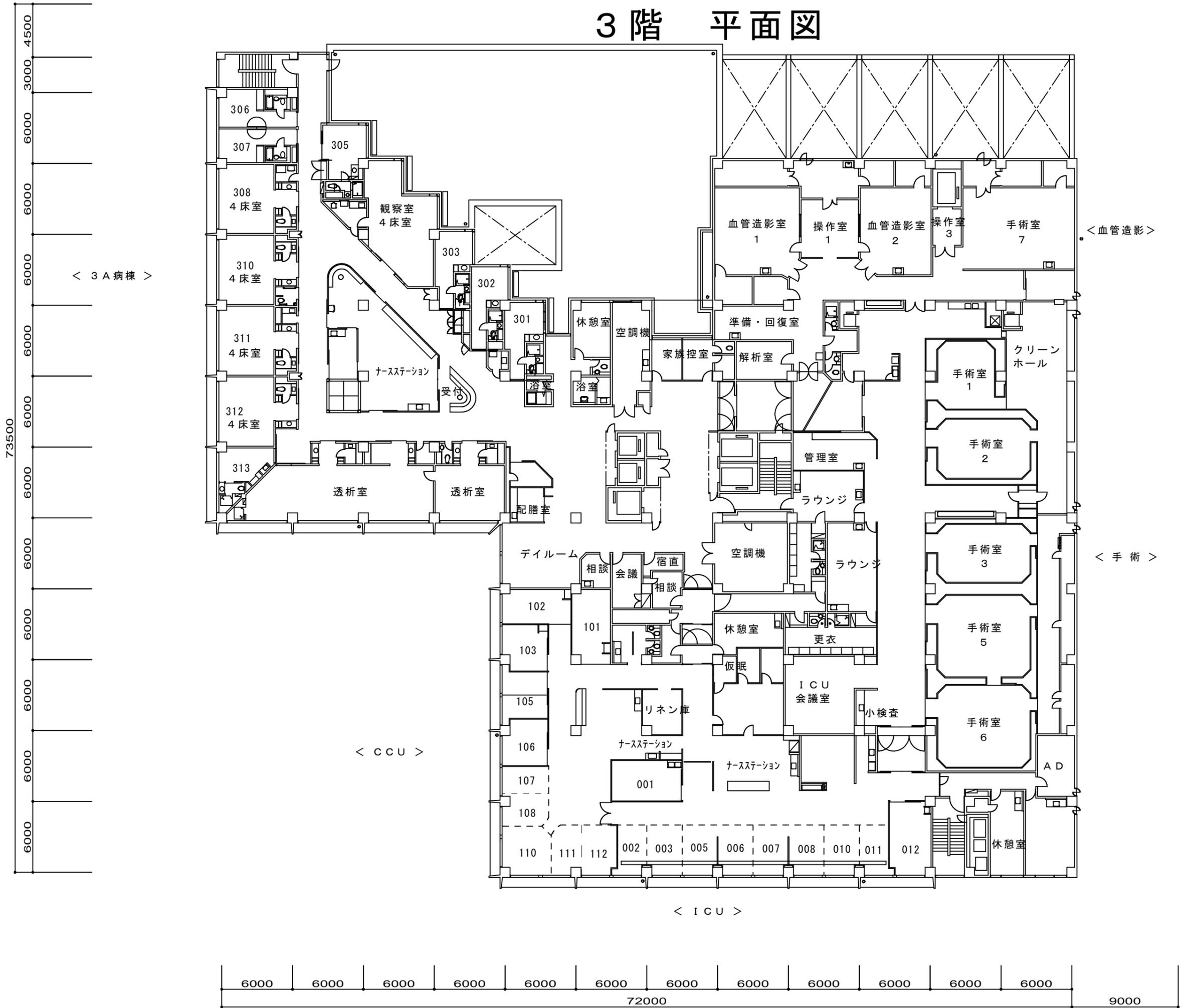
地下1階 平面図



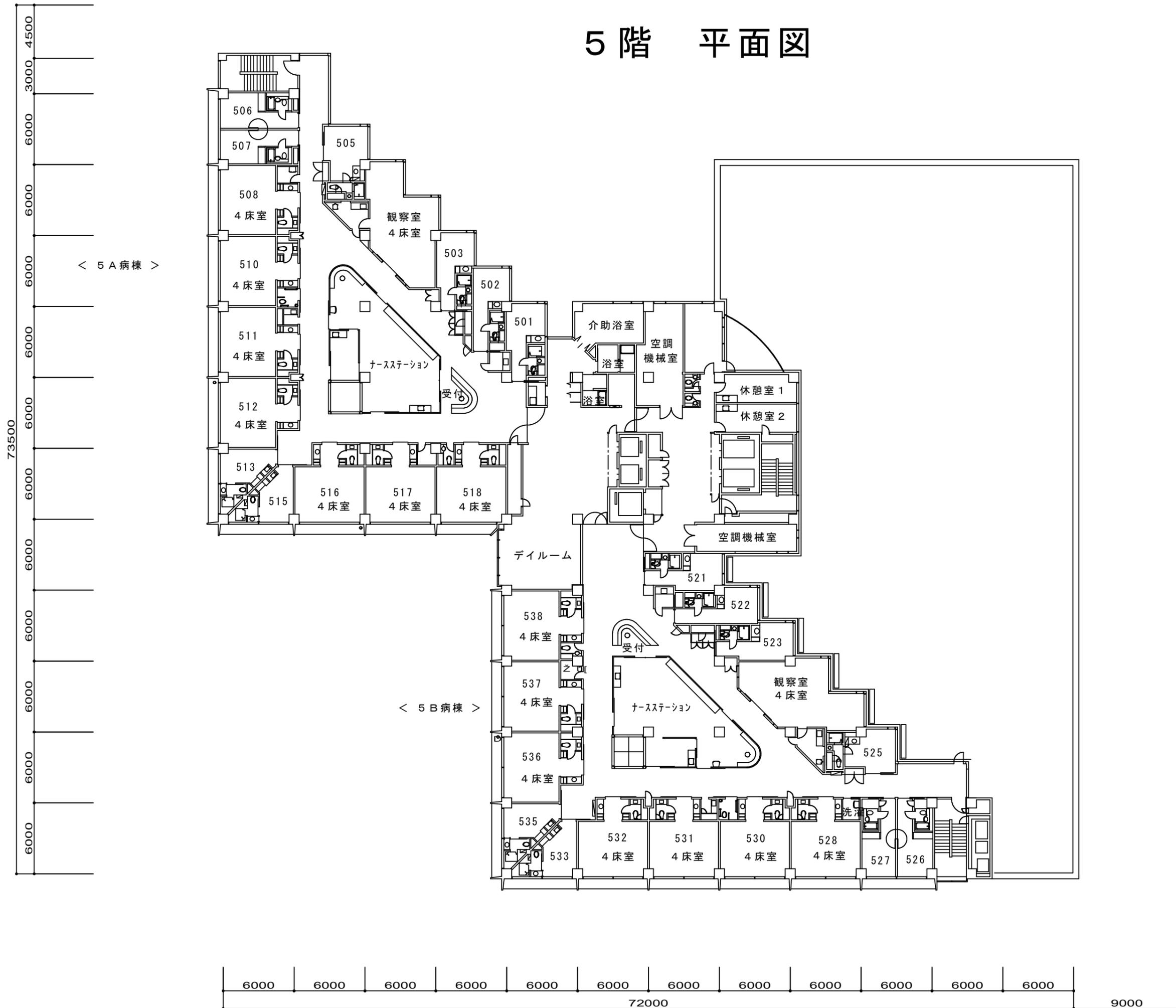
1階 平面図



3階 平面図



5階 平面図



令和元年度
編集後記

令和元年度千葉県循環器病センター年報の編集が職員の皆様の御協力のもとに完成いたしました。大変感謝いたします。

天皇陛下の御譲位により 2019 年 5 月 1 日から新しい元号である令和がスタートしました。一時期年号は西暦に統一し元号は不要との意見もあったかと思いますが、漢字語圏でも元号が残るのは日本だけであることを聞くにつけ誇らしい気持ちになります。これからも大切に残していきたい日本の伝統の一つです。

さて、令和、**Beautiful Harmony** と海外に説明しましたが、新元号に反し今年度は困難な年でした。まず 9 月～10 月に複数の巨大台風が東日本を襲い大きな損害をもたらしました。当センターも例外ではなく、今までにない被害を経験しました。幸いにも職員の怪我はなく、患者さんには継続して医療を提供することが出来ましたが、インフラ整備に課題が残りました。さらに年が明けてから未知の感染症である COVID-19 が世界中で拡大し、東京 2020 五輪も延期が決定されました。

このように激動の年でありましたが、村山病院長の号令で、当院の使命である地域医療および循環器疾患の高度医療は継続してまいりました。皆様のご努力が年報に記載されています。

内容においてはまだまだ不十分な点も多いと思われませんが、当センターの歩みとともに一層充実したものにして行きたいと存じます。

最後に、編集に携わっていただいた関係各位に重ねて御礼申し上げます。

(中村 精岳)

